



ネットワーク モジュールの取り付け

- [スイッチへのネットワーク モジュールの取り付け \(1 ページ\)](#)
- [ネットワーク モジュールの取り外し \(5 ページ\)](#)
- [ネットワーク モジュールのシリアル番号の確認 \(6 ページ\)](#)
- [着脱可能トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し \(7 ページ\)](#)

スイッチへのネットワーク モジュールの取り付け

安全上の警告

ここでは、取り付け時の注意事項および警告事項について説明します。各国語による安全上の警告については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Catalyst 9200 シリーズ スイッチ*』を参照してください。

ネットワーク モジュールを取り付ける前に、この項に目を通してください。



注意 機器を扱う際には、必ず静電気防止対策を行ってください。機器に対する静電破壊のリスクを排除するため、取り付けや保守を行う作業者は、必ずアースストラップを使用してアースを行ってください。機器を取り外す際に静電破壊が発生する可能性があります。



警告 この機器の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。
ステートメント 1030

ネットワーク モジュールの取り付け



(注) ネットワーク モジュールなしでもスイッチは動作可能ですが、アップリンク ポートが不要な場合は、ブランク モジュール（ポートや SFP スロットなし）を取り付けてください。



(注) SFP/SFP+ スロット付きのネットワークモジュールを挿入または取り外すと、スイッチのログに記録されます。

サポートされているネットワークモジュールおよび Cisco 着脱式トランシーバのみを使用してください。各モジュールには、セキュリティ情報をコード化したシリアル EEPROM が内蔵されています。

ネットワーク モジュールはホットスワップ可能です。モジュールを取り外した場合は、別のネットワーク モジュールまたはブランク モジュールを代わりに取り付けてください。



(注) スイッチは、ネットワーク モジュールが取り付けられた状態で、EMC 規格、安全規格、および熱規格に準拠しています。アップリンク ポートが不要な場合は、ブランク ネットワーク モジュールを取り付けてください。

始める前に

ネットワーク モジュールを取り付けるには、次の注意事項に従ってください。

- ブランクモジュールは、ネットワークモジュールを取り付けるまではスロットから外さないでください。アップリンクスロットにはモジュールが常に取り付けられている必要があります。
- 着脱式トランシーバのダストプラグや光ファイバケーブルのゴム製キャップは、ケーブルを接続するまで取り外さないでください。これらのプラグおよびキャップは、モジュールポートやケーブルを汚れや周辺光から保護する役割を果たします。
- ネットワークモジュールの取り外しや取り付けを行うと、耐用期間が短くなる可能性があります。ネットワークモジュールの取り外しや取り付けは、必要最低限にしてください。
- 静電破壊を防ぐため、ケーブルをスイッチや他の装置に接続する場合は、ボードおよびコンポーネントを正しい手順で取り扱うようにしてください。

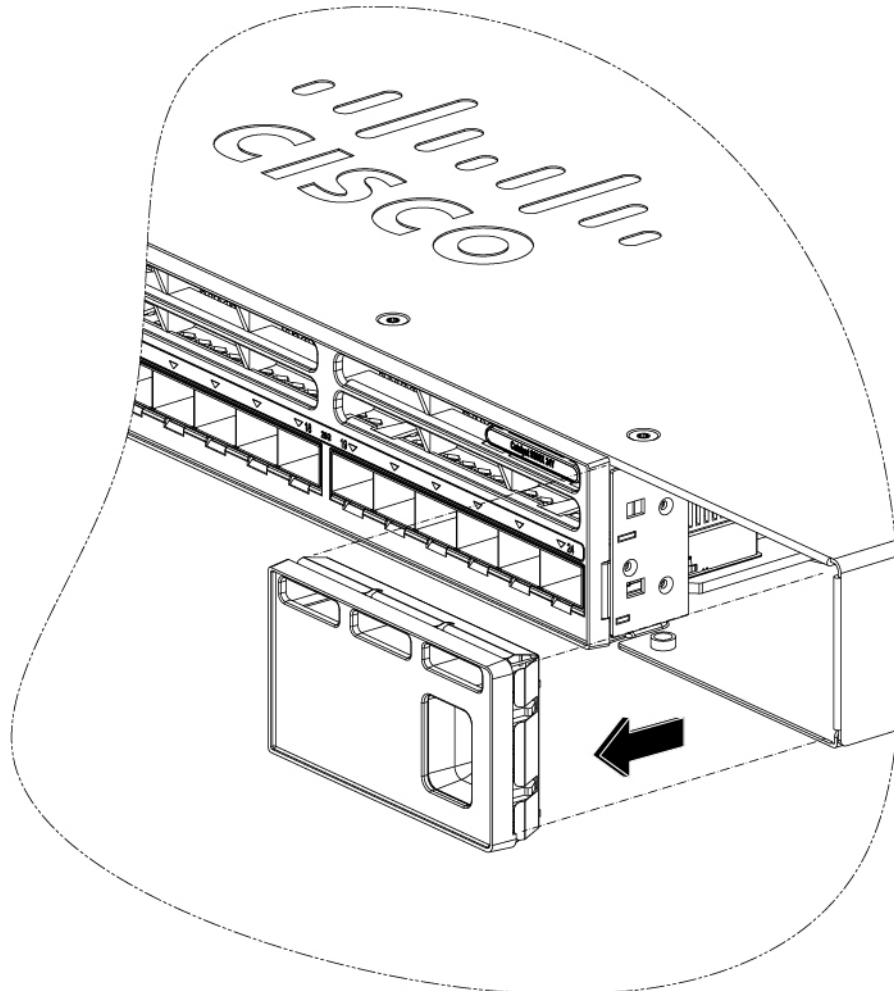
手順

ステップ 1 手首に静電気防止用リストストラップを着用して、ストラップの機器側をアース表面に接続します。

ステップ2 保護用パッケージから、モジュールを取り出します。

ステップ3 ブランク モジュールをスイッチから取り外して保管します。

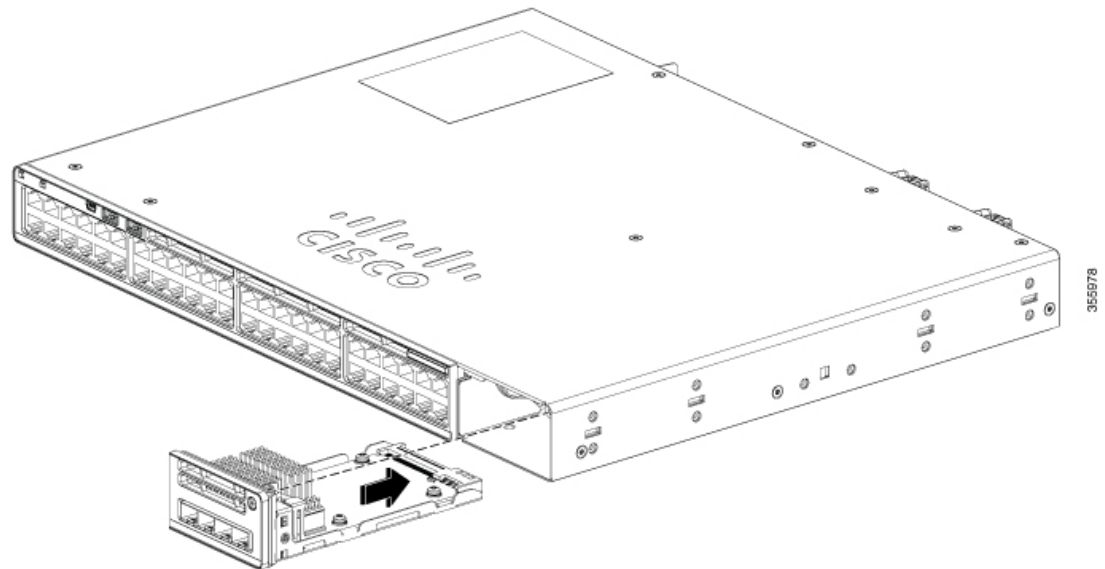
図 1: ブランク モジュールの取り外し



- 注意** モジュールを差し込む前に、モジュールの向きが正しいかどうかを確認します。向きを間違えて取り付けると、モジュールを破損することがあります。
- 注意** ケーブルが接続された状態、あるいは着脱式トランシーバが取り付けられた状態でネットワークモジュールを取り付けしないでください。必ずケーブルおよびトランシーバモジュールをすべて取り外してから、ネットワークモジュールを取り付けてください。
- 注意** 光ファイバケーブルが接続された状態でネットワークモジュールの取り付けまたは取り外しを行うと、モジュールインターフェイスが **error-disable** 状態になる可能性があります。インターフェイスが **error-disable** 状態になった場合は、**shutdown** および **no shutdown** のインターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用すれば、インターフェイスを再びイネーブルの状態にできます。

- ステップ4** モジュール面を上に向けて、モジュールスロットに取り付けます。ネジがシャーシと接触するまで、モジュールをスロットに差し込みます。非脱落型ネジを締めて、ネットワーク モジュールを固定します。

図2: スイッチへのネットワーク モジュールの取り付け



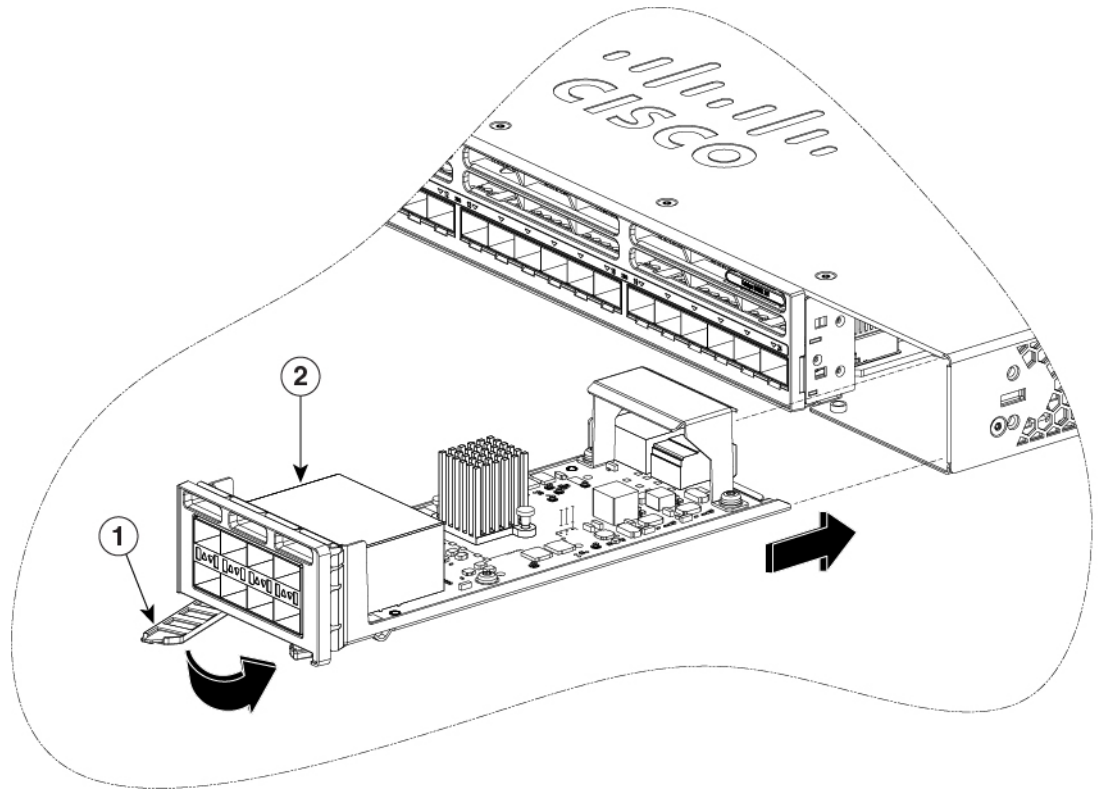
- ステップ5** 次のいずれかを実行します。

- C9300 ネットワーク モジュールの設置中、モジュール面を上に向けて、モジュールスロットに取り付けます。ネジがシャーシと接触するまで、モジュールをスロットに差し込みます。非脱落型ネジを締めて、ネットワーク モジュールを固定します。

図3: スイッチへの C9300 ネットワーク モジュールの取り付け

- C9300X ネットワーク モジュールの設置中、モジュール面を上に向けて、モジュールスロットに取り付けます。モジュールをスロットに差し込み、モジュールの前面プレートの背面とスイッチの前面プレートがぴったり重なるまで押します。イジェクタとラッチでネットワーク モジュールを固定します。

図 4: スイッチへの C9300X ネットワークモジュールの取り付け



357396

1	イジェクタ	2	ネットワークモジュール (C9300X-NM-8Y)
---	-------	---	-------------------------------

ネットワーク モジュールの取り外し



(注) スイッチは、ネットワーク モジュールが取り付けられた状態で、EMC 規格、安全規格、および熱規格に準拠しています。アップリンク ポートが不要な場合は、ブランク ネットワーク モジュールを取り付けてください。



(注) 認証の失敗とモジュールの非検出を回避するには、ネットワークモジュールの活性挿抜 (OIR) の間に少なくとも 6 ~ 8 秒待機します。

手順

ステップ1 手首に静電気防止用リストストラップを着用して、ストラップの機器側をアース表面に接続します。

注意 ケーブルが接続された状態、あるいは着脱式トランシーバモジュールが取り付けられた状態でネットワークモジュールを取り外さないでください。必ずケーブルおよびモジュールをすべて取り外してから、ネットワークモジュールを取り外してください。

注意 光ファイバケーブルが接続された状態でネットワークモジュールの取り付けまたは取り外しを行うと、モジュールインターフェイスが **error-disable** 状態になる可能性があります。インターフェイスが **error-disable** 状態になった場合は、**shutdown** および **no shutdown** のインターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用すれば、インターフェイスを再びイネーブルの状態にできます。

ステップ2 着脱式トランシーバモジュールからケーブルを取り外します。

ステップ3 ネットワークモジュールから着脱式トランシーバモジュールを取り外します。

ステップ4 ネットワークモジュールを固定している非脱落型ネジをシャーシから完全に外れるまで緩めます。

ステップ5 ネットワークモジュールを慎重にスロットから引き出します。

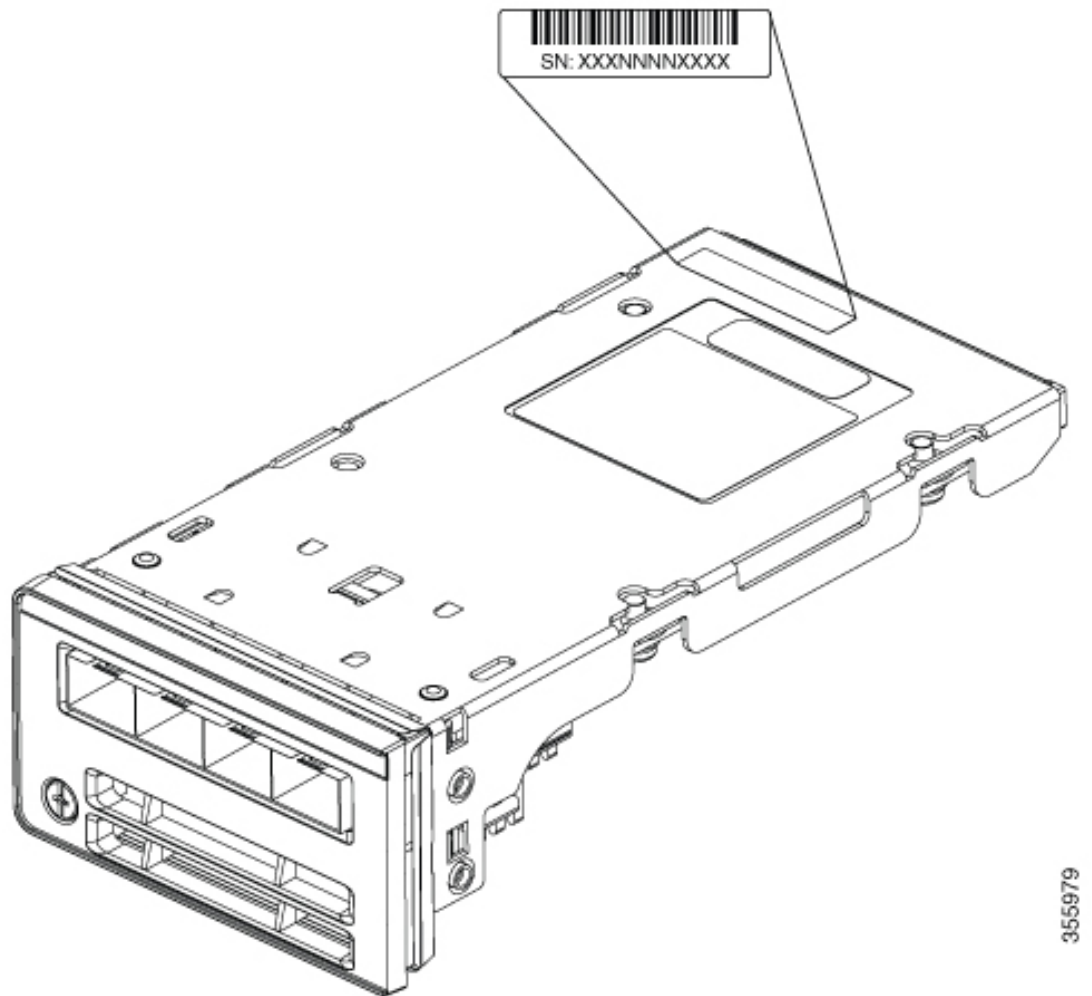
ステップ6 交換用のネットワークモジュールまたはブランクモジュールをスロットに取り付けます。

ステップ7 取り外したモジュールは、静電気防止用袋に収めるか、その他の保護環境下に置いてください。

ネットワークモジュールのシリアル番号の確認

ネットワークモジュールについてシスコのテクニカルサポートに連絡する場合は、モジュールのシリアル番号が必要です。

図 5: ネットワーク モジュールのシリアル番号の位置



355979

着脱可能トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し

Cisco 着脱式トランシーバモジュールの取り付け

始める前に

サポートする Cisco 着脱式トランシーバモジュール (SFP、SFP、SFP28、QSFP+ モジュール) の一覧は、Cisco.com にあるスイッチのリリースノートを参照してください。スイッチには、必ずサポートされるモジュールを使用してください。サポートされるモジュールの最新情報については、「[Cisco Transceiver Modules Compatibility](#)」の情報を参照してください。

トランシーバモジュールの取り付け、取り外し、ケーブル接続、およびトラブルシューティングについては、デバイスに付属しているモジュールのマニュアルを参照してください。



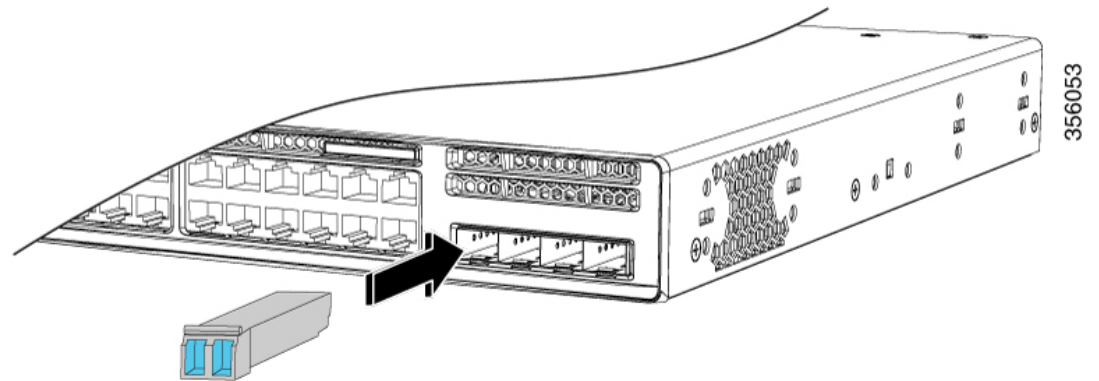
警告 クラス 1 レーザー製品です。ステートメント 1008

- トランシーバモジュールポートのダストプラグや光ファイバケーブルのゴム製キャップは、ケーブルを接続する準備が整うまで取り外さないでください。これらのプラグおよびキャップは、モジュールポートやケーブルを汚れや周辺光から保護する役割を果たします。
- トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外しによって、モジュールの耐用年数が短くなる可能性があります。モジュールの取り外しや取り付けは、必要最低限にしてください。
- 静電破壊を防ぐため、ケーブルをスイッチや他の装置に接続する場合は、ボードおよびコンポーネントを正しい手順で取り扱うようにしてください。
- 複数のスイッチポートに複数のトランシーバモジュールを挿入するときは、各トランシーバモジュールの挿入の間で5秒間待機します。これにより、ポートが `error-disabled` モードにならなくなります。同様に、ポートからトランシーバモジュールを取り外したときは、再度挿入する前に5秒間待機します。

手順

- ステップ 1** 手首に静電気防止用リストストラップを着用して、ストラップの機器側をアース表面に接続します。
- ステップ 2** 送信 (TX) および受信 (RX) の表示を確認して、トランシーバモジュールの上部を識別します。
トランシーバモジュールによっては、送信側と受信側 (TX と RX) の印の代わりに、接続の方向を示す矢印が付いている場合もあります。
- ステップ 3** ベールクラスプラッチ付きのトランシーバモジュールの場合は、ロック解除の位置までラッチを開きます。
- ステップ 4** モジュールをスロットの開口部に合わせて、コネクタをスロットの奥にはめ込みます。

図 6: ネットワークモジュールへのトランシーバモジュールの取り付け

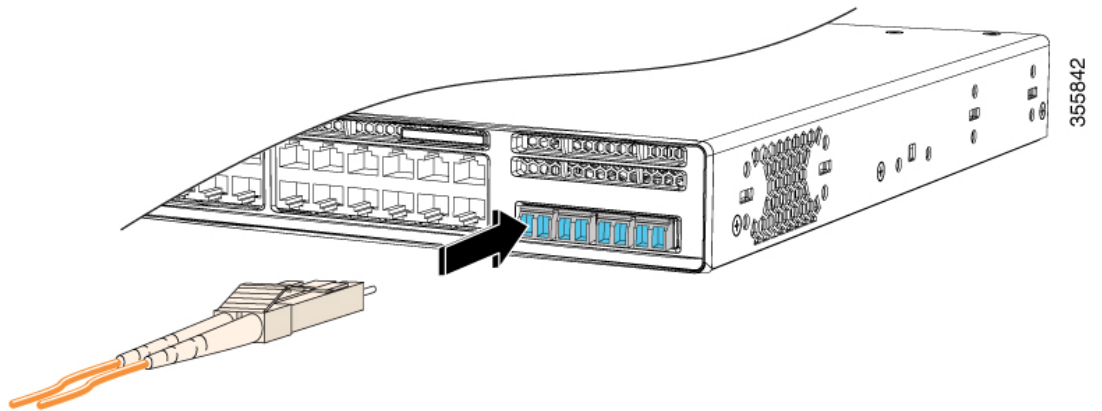


ステップ 5 モジュールにベールクラスプラッチが付いている場合は、ラッチを閉じてトランシーバモジュールを固定します。

ステップ 6 トランシーバモジュールのダストプラグを取り外して保管します。

ステップ 7 トランシーバモジュールのケーブルを接続します。

図 7: トランシーバモジュールのアップリンク モジュール スロットへの設置



Cisco 着脱式トランシーバモジュールの取り外し

手順

- ステップ 1** 手首に静電気防止用リストストラップを着用して、ストラップの機器側をアース表面に接続します。
 - ステップ 2** トランシーバモジュールからケーブルを取り外します。ケーブルコネクタプラグを再び取り付ける際には、送信 (TX) と受信 (RX) を間違えないように注意してください。
 - ステップ 3** 光インターフェイスを清潔に保つために、トランシーバモジュールの光ポートにダストプラグを取り付けます。
 - ステップ 4** ベールクラスプラッチ付きのモジュールの場合は、ベールを下げて、モジュールを取り外します。指でラッチを開けない場合は、小型のマイナスドライバなどの細長い工具を使用してラッチを開きます。
 - ステップ 5** トランシーバモジュールを持ち上げて、スロットからゆっくり引き出します。
 - ステップ 6** トランシーバモジュールは、静電気防止用袋に収めるか、その他の保護環境下に置いてください。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。